

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和4年4月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791200088		
法人名	株式会社 宏和		
事業所名	グループホーム春日苑田尻		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉南郡田尻町吉見384番地		
自己評価作成日	令和 4年 3月 5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月19日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和 4年 3月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

関西国際空港の対岸に位置し、近年国際化の進むなかでも昔ながらの町並みや田畑の多く残る町である。施設を取り巻く環境もそんな田園風景の中にあり、静かで季節を感じられる入居者様にとっては馴染みやすい環境となっている。
建物は広い敷地を活かした平屋建で採光も多く明るく広々とした空間で、入居者様にはゆったりとのびのびと、その人らしい生活を送ることが出来るよう支援していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム春日苑田尻は、海岸線に近く、自然豊かな田園地帯に立地している。敷地は広々としており、ゆったりと過ごせる環境である。事業所建物は平屋建てで、2つのユニットはワンフロアに配置されている。またユニット間にはドアなどの仕切りがないため、利用者や職員が気軽にユニット間を行き来できる設計となっている。職員は手洗いうがいや手すりの消毒を徹底し、感染予防対策をしっかりと行い、感染予防に努めている。長く勤めている職員が多くおり、利用者にとって顔馴染みとなることで安心できる要素となっている。
コロナ禍により外出ができない環境であるが、季節感が持てるような作品を壁に飾ったり、ゆず風呂や行事食を提供するなど工夫している。
散歩中に挨拶を交わす他、隣接する畑で穫れた野菜をもらったり、災害時の協力体制を話し合うなど地域住民との良好な関係に努めている。事業所は地域の福祉避難所となっており、町の担当者とも災害時に地域住民の受入れをどのようにするかなど協議を重ねている。
協力医は24時間365日連携を図ることができ、緊急時の対応等も安心できる体制を整えている。協力医療機関と連携を図り、看取り介護を行っている。今期は1件の実績がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	プライバシーを守り一人一人を尊重する、入居者様の立場に身をおいて考える、家庭的な環境づくり、地域交流の理念を掲げ共有できるよう各ユニットに掲示し再認識している。	職員がいつでも理念を確認できるように、理念は事務所内及び各ユニットのキッチンに掲示している。パンフレットにも掲載している。管理者は職員の採用時に理念を説明し、その周知を図っている。	職員への理念周知の取り組みが不十分である。日頃の会議等を通じて定期的に理念を再確認する機会を設けるなど、職員全体で理念を共有し、より良い支援につなげられるような取り組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントがほとんど開催されおらず入居者様自身が地域とのつながりを感じられる機会が減少している。	コロナ禍の影響で、地域の行事等が中止になるなど、事業所や利用者の地域との多くの交流の機会が失われている。しかしながら、近隣の小学校から児童が作成した各利用者あての年賀状が事業所に届いたり、利用者の散歩中に隣接する畑で収穫した野菜を住民からもらうなどの地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	田尻町徘徊高齢者等SOSネットワーク事業協力機関に登録している。田尻町と災害時の福祉避難所の協定を締結している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況や行事報告、事故ヒヤリハット報告を行っている。施設の実態を知っていただくとともに改善点などの助言をいただきそれを参考にしてサービス向上に活かしている。	令和3年はコロナ禍のため、資料送付のみで未開催であったが、ここ最近2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。参加者は、地区会長、老人会会長、婦人会会長、民生委員児童委員会会長、地域包括支援センター職員、田尻町福祉課職員及び利用者家族である。主に利用者や職員の状況、活動や事故の報告が行われている。会議録は、事務所内に設置し、職員が閲覧することで情報を共有している。会議での意見や提案等は職員間で検討し、支援に活かしている。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>福祉課担当者とは運営推進会議やメール等で定期的に情報をいただいたり、問い合わせなどはすぐに対応いただいている。</p>	<p>コロナ関連の通知に関することや研修、避難計画作成のこと等、頻繁に町の福祉課職員とは情報交換を行っている。その他、管理者は、地域密着連絡会、評議委員会(社協)、運営協議会(地域包括支援センター)等にも参加し、町の担当者との協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用契約書第6条3の項目において、身体拘束および行動の制限をしない旨を記載しており職員にも周知、理解させケアに取り組む。玄関の施錠については夜間帯の防犯目的以外は常時開錠している。</p>	<p>年に2回虐待・身体拘束に関する研修を実施している。また事業所内に不適切ケア(態度や言葉遣い)に関する資料を掲示し、朝礼等で周知している。ユニット間は終日自由に行き来でき、玄関も日中は施錠していない。帰宅願望のある利用者には、職員が付き添って外出している。</p>	<p>身体拘束は、日々の支援の何気ない職員の言葉かけや行動により起こり得るものであるため、日頃の支援中に職員間で互いに注意し合える関係作りに引き続き取り組んでいただくことを希望したい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に関する内部研修等を行い理解を深める。また虐待・身体拘束防止委員をスタッフから選任し職員間で常に意識しながら虐待の無い施設を目指している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>学ぶ機会として外部研修においては参加できていない状況である。田尻町社会福祉協議会による日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用されている入居者様は数名いらっしゃる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書及び重要事項説明書については契約時に内容を説明し質疑応答を行ったうえで納得頂いてから承諾印を頂いている。また改定があれば都度、文書や面談時などで説明し必要なものは同意をいただいている。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時など意見を頂戴するようコミュニケーションをとるようにし、玄関内に御意見箱を設置し、いつでも投函出来るようにしているが、面会制限などもあり機会には以前より減少している。</p>	<p>家族の意見等は、電話や来所の際に聴き取っている。運営面に関する意見等はほとんどないが、以前には、職員の氏名がわからないとの意見から、名札の着用を実施したり、出勤者を玄関に掲示したり、運営に反映している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>積極的にコミュニケーションを行い、意見や提案はいつでも聞ける環境をつくり、それについて反映していけるよう検討する。</p>	<p>管理者は日頃から職員とのコミュニケーションが取りやすい環境づくりに努めている。職員からは、人員の増員や建物設備の補修、備品の購入、所内文書の様式の変更について様々な意見や提案があり、その都度検討し、運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>仕事内容や成果、勤務状況を把握し、定期的に人事考課表で評価を行いそれらを総合的に考慮しながら給与水準ややりがい、向上心が継続できるような職場環境、条件の整備に努めていただく。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修については参加できる機会が減少している状況である。今後は状況をみながら研修に参加し、OJTも進めていく。</p>	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>関連事業所とは定期的に施設会議等参加し意見交換を行うことでサービスの質の向上に努める。</p>	/	/

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談時に本人様の意向、要望を伺い尊重していく。家族様や担当ケアマネージャーと相談し納得していただいたうえでサービスを利用していただく。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には施設の見学をしていただき雰囲気イメージしていただいたうえで家族様の要望や疑問点など十分に話し合い、安心して入居していただけるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始に至るまでにアセスメントを行い、ニーズの優先性を見極め、他のサービスも含めた支援を考えていく。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の立場に立つという運営理念に基づき、本人様の思いに傾聴しADL等も考慮しながら、必要な援助を受け自らの力で職員と共に生活をしているという実感を持って頂けるよう努める。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の施設での生活ぶり、過去の生活歴等の情報を共有し合い家族様からも意見を頂く事で本人様との絆を大切にしながら共に支えていく。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	外食行事や買い物支援など外出を伴う行事はほとんど実施できていない状況である。また、家族様との外出や面会についても限定的となっている。	現在はコロナ禍のため、積極的な実施はできていない。以前は、職員が同伴して、住んでいた自宅に衣類を取りに行ったり、談話コーナーを開放して利用者の友人や知人の来所を受け入れたりしている。	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係性を把握し、孤立したりトラブルの無いように関わっていくよう支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時において次に生活される場所の担当者に詳しい情報提供を行い、本人様や家族様にとっての安堵の場となるよう努める。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で本人様の希望や思いをくみ取り生活に反映していく。また疎通が困難な方においても過去の生活歴などから利用者様本位に考え、少しでも希望に近づいたケアを行えるよう努める。	利用者の思いや意向は、日頃の支援を通じて聴き取っている。困難な場合は家族を通じて聴き取っている。聴き取った情報等は、朝礼で話し合っているが、「朝礼申し送りノート」にも記載し、全職員で情報を共有出来るように努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人様とのコミュニケーションや家族様から情報収集を行い、一人ひとりに合わせた生活環境、ケアを提供できるよう努める。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課や日々の心身状態、有する力の把握に努め、必要なケアを行っていく。		

26	<p>10</p> <p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者は介護職員と本人様、家族様、医師の意見等も聞きながら本人様がより良く暮らすための課題を分析し介護計画を作成していく。</p>	<p>6か月ごとにモニタリングし、同時に介護計画の見直しを行っている。また心身の変化等により必要に応じて随時見直しを行っている。利用間もない利用者には短期間でモニタリングを行うこととしている。計画の見直しの際は、利用者本人、家族の他、医師、歯科医師、看護師等の関係者から事前に聴き取った意見や提案を反映させている。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入居者様の日々の様子や気づき、ケア等を支援経過に記入しており、特記事項は申し送りにおいて職員間で情報を共有し、状況によってケアや介護計画の見直しを行っている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人様、家族様の状況によりその時々で生まれるニーズには出来るだけ柔軟に対応し支援していく。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域との関わりの場所であったカフェやふれあいセンターの桜花見、相談員の訪問など活用していたが、ここ最近では活用できていない状況である。</p>		
30	<p>11</p> <p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前に事業所の連携医療機関から説明を受け納得を得られたうえで契約していただいている。受診時には病状を報告し指示を受けている。</p>	<p>かかりつけ医の選択は利用者や家族に任せているものの、協力医は月2回の訪問診療があり、そうした利便性により従来のかかりつけ医を協力医に変更する利用者がほとんどである。家族等が通院に付き添うことを基本としている。家族等が通院する場合は、利用者の心身の状況等を記録した用紙を渡し、情報の伝達を行い医療連携に努めている。</p>	

31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>職場内の看護職員や訪問看護師とは入居者様の状態を密に相談し、適切に対応や助言をいただいている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院医療機関の主治医やソーシャルワーカー等との情報交換を行い、退院後の対応などを相談しながら出来るだけ早期に施設に戻れるよう努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や看取り介護に関する指針を定め、入居時に説明させていただいている。実際にケアを行うにあたってはあらかじめ入居者様、家族様の意向を伺い医師や看護師、事業所と十分に話し合いながら支援に取り組む。</p>	<p>「看取りに関する指針」のほかに、「重度化における対応に関する指針」も作成し、家族等に説明後同意を得ている。協力医は24時間365日連携を図れる体制であり、重度化の際、事業所は協力医(かかりつけ医)や看護師、家族と十分な話し合いの機会を設けている。職員には看取り介護についてのマニュアルを活用し、研修を実施している。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時には対応出来るよう緊急連絡網やマニュアルを周知させる。</p>		

35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回避難訓練を実施し、運営推進会議では災害時の際には気にかけておいていただけるようお願いしている。また、田尻町と相談しながら非常災害対策計画を作成している。</p>	<p>夜間想定を含めた自主的な避難訓練を年2回実施している。運営推進会議を通じて地域住民の協力が得られるように話し合っている。地域の福祉避難所に指定されているが、どこまでの地域住民を受入れるのかなど、町の担当者と協議を重ねている。非常食を3日分とランタンや懐中電灯、カセットコンロなども備蓄し災害に備えている。</p>	
----	----	--	--	---	--

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシーを守り一人ひとりを尊重しますという事業所の理念に掲げて実践しており、接遇面に関しても会議の場や朝礼等、随時伝え徹底していくよう努める。</p>	<p>プライバシーに関する研修は年2回程度実施している。利用者が整容したり、意思決定がしやすくてできるよう言葉かけを心掛け、利用者本位の支援となるように取り組んでいる。不適切な言葉かけがあった場合は、その都度管理者が指導している。個人記録等は鍵付書庫で管理している。</p>	<p>日頃から職員間で不適切な言動に注意をし合える環境づくりに取り組み、職員一人ひとりがプライバシーの確保と人格の尊重が継続して支援ができるような取り組みに期待したい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常のコミュニケーションの中で本人様の思いや意思を把握し自己決定の支援を行っていく。また自己決定の困難な利用者様においても表情など観察し出来るだけ考慮していく。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者様のその日の心情や体調を把握し一人ひとりのペースに合わせたケアを提供することで出来るだけ希望に沿った生活が出来るよう支援していく。</p>	/	/

39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>支援が必要な方には季節に合った好みの衣服を職員と一緒に選んだり勧めたりしている。意思表示が困難な入居者様においては偏った服装にならないよう考慮する。また定期的に訪問美容院に依頼し髪型を整えて頂く。</p>		
40 15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者様それぞれの能力に合わせた食事形態、分量で提供している。盛り付けやトレーを並べて頂く等の食事準備、食器洗い等の後片付けは入居者様のその日の気分等観察しながら負担にならない程度に一緒に行うようにしている。以前は外食支援を行い入居者様自身で好みの食事を選んで頂いていたが最近では実施できていない。</p>	<p>季節感を感じられるように、流しそうめんやおせち料理等の行事食を取り入れ、利用者が食を楽しめるような取り組みを行っている。また隣接の畑や家庭菜園で収穫した旬の野菜で季節感を味わえるよう支援している。献立は本社で作成しているが、利用者の希望により変更することもある。利用者の残存能力を活かすため、皮むきや盛り付け、配膳下膳などを職員と共に行っている。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事ごとに食事摂取量、また水分摂取量をチェックし個々にその日のバランスを確認している。重度の認知症や高齢で摂取量がまばらな方については医師と相談し栄養剤の摂取など対応を行っている。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、入居者様の能力に応じた口腔ケアを行っている。月に二回、歯科医師と歯科衛生士による訪問診療、口腔ケアを受け、またスタッフも助言、指導を受けケアに活かしている。</p>		

43	<p>16</p> <p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表により入居者様それぞれの排泄パターンを把握していくことでタイミングの良いトイレ誘導、声掛けを行い出来るだけ失敗を減らし、トイレで排泄できるよう勧めていく。</p>	<p>食事前や就寝前の他、利用者一人ひとりの状況に合わせ、声掛けを行いトイレで排泄ができるように支援している。体を動かすことや朝食にヨーグルトを提供するなど便秘とにならないように工夫している。夜間帯もトイレ誘導を行うことを基本としているが、やむを得ずオムツを使用する利用者もいる。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>適度な運動の働きかけ、水分量の確保が出来るよう声かけし、食事については毎朝のヨーグルトや野菜類の提供を行っている。症状によっては看護師や医師と相談し薬剤での排泄の促しを行う。</p>		
45	<p>17</p> <p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴曜日、入浴時間はおおよそ決めさせていただいている。安全に入浴していただくため必要な方には二人介助で行っており、拒否の多い方にはタイミングを合わせ納得いただいたうえで入浴支援を行っている。コスモユニットでは今のところ時間外での要望はみられない。</p>	<p>入浴は基本的に週3回、午後2時までの支援としている。女性職員が中心である為、異性介助となるが利用者には理解を得ている。シャンプー等は持ち込みが可能である。ゆず湯など季節を感じ楽しむことができるように工夫している。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者様の生活習慣を把握し、その時々で本人様の意思を確認し自由に休息したり就寝して頂いている。コスモユニットでは認知症による精神状態によっては居室の方が落ち着く場合があります様子を見ながら適宜誘導している。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書は一人ひとり各ユニットごとにまとめ、随時確認出来るようにしている。服薬における効果、症状の変化を確認し、服薬変更時には特に気を付けて様子観察を行う。</p>		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日常生活の中で個々の能力に応じた役割を無理の無い程度で担っていくことで生活に張り合いを持って頂けるよう努める。コスモスユニットでは食後の食器洗いや洗面所掃除、野菜の皮むきなど行っていただいている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>以前のようなドライブや外出などの外出支援や家族様と共に出かけるといった機会を設けることが困難となっており、実施できていない状況である。コスモスユニットでは毎週のように娘様と出かけられる入居者様も居られたがコロナ禍の中で行われていない。</p>	<p>コロナ禍により、外出は自粛中である。気候の良い日は、車いすの利用者も一緒に敷地内を散歩している。職員の配置により、散歩ができない場合もある。筋力や認知能力が低下しないように、体操したりカラオケ等を取り入れ活性化ができるように努めている。</p>	<p>第三者との接触が難しいコロナ禍であるが、日常的な散歩等ができる機会を持てるような取り組みに期待したい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布を持参し、ある程度の金額を本人様で管理されている方も居られる。自己管理が出来るよう支援を行っていくが、現状外出支援を行っておらず使う機会が作れていない。コスモスユニットでは買い物を楽しみにされていた入居者様も居られ、現状はスタッフに欲しいものを依頼されている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の使用は希望されれば行っていただいている。面会が制限されている中でコスモスユニットでは定期的に会話を楽しまれる入居者様も居られる。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂ホールや居間、廊下などは天井も高く採光も十分に取られ開放感のある空間となっている。壁には行事ごとの壁飾り等を飾り季節感を感じて頂く。事業所の理念にも掲げているように家庭的な雰囲気づくりを心がけ利用者様にとって居心地の良い環境づくりを心がける。</p>	<p>対面式のキッチンで調理する音や匂いを感じる事ができる。また、気候の良い時は、ウッドデッキを活用し、花を見ながらお茶を飲んだり、おやつを食べることもある。利用者同士の相性に合わせて、席の配置を変える等、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>両ユニットの行き来は自由に行っていた だいており居間のソファや談話コーナー などゆっくりと過ごしていただいている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人様、家族様と相談しながら馴染 みの家具や好みの物を持ち込んで頂くこ とにより本人様らしい居心地の良い居室 空間を協力しながら作っていく。</p>	<p>エアコンとカーテンは事業所が備え 付けている。持ち込み物は原則自由 であるが、石油ストーブなどの危険 物やペットは禁止している。畳の部屋 もあり、布団を敷いて寝ることも可能 である。家具の配置などは家族等と 話し合っ決めていく。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」 や「わかること」を活かして、安全かつ できるだけ自立した生活が送れるように工夫 している</p>	<p>建物はバリアフリー構造となりトイレや 廊下、浴室等には手すりを設置、また職 員の見守りも行いながら利用者様個々 に応じた安全で自立した生活が送れる よう努める。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、 求めていることをよく聞いており信頼関係がで きている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない